

子どもの学ぶ意欲を高め、気付きを生む授業づくりを目指して ～第3学年「円と球」の実践から～

小千谷市立東小千谷小学校
教諭 丸山 恵梨

I 授業改善の視点

当校では、昨年度までの実態から、身に付けた知識や技能をもとに自分の考えを伝え合う力が十分に高まっていないことが分かった。このことから、自分の考え（気付き）を表出したり、互いの考えを伝え合ったりすることによって主体的に課題を解決していく力を育てていきたいと考え、今年度の研究主題を「子どもの学ぶ意欲を高め、気付きを生む授業づくり」と設定した。

子どもの学ぶ意欲を高めるために既習事項を生かし、見通しがもてる課題提示が重要であると考えた。また、気付きを生むために仲間の考えに十分触れることで自分の考えをさらに深化させる過程が大切だと考え、本実践を行った。

1 学ぶ意欲を高めるための手立て：課題提示の工夫

子どもの興味や日常場面に即した課題を用意し、「どう考えたらいいかな。」「知りたいな。」などと、問題意識をもち主体的に学習に取り組むことができるようにする。また、答えや考え方が1つではなく、既習事項を駆使すれば多様な考えや解き方が生まれるような課題を提示し、子どもの問題意識を触発する。

2 気付きを生む授業づくりの手立て

(1) 学び合いの促進

課題解決に向けて、子ども同士で気付いたことや疑問点を話し合う場面を積極的に取り入れる。また、個人がそれぞれ課題に取り組むだけでなく、「グループの仲間で協力して課題に挑戦しよう!」、「クラスの全員が○つの方法で解けるようになろう!」などの目標を設定することで、子どもが進んで考えを伝え合ったり、学び合ったりする姿を期待する。互いの考えを聞き合う活動を通して、情報の共有、関連付け、比較を行えるように教師が子どもの言葉をつないでいくようにする。

(2) 授業の振り返り

授業の終末に、学習のまとめと振り返りを書く時間を設ける。まとめは、その授業で出たキーワードをもとに子どもと教師で作上げる。振り返りは、自分の学びを自覚したり、友達とのかかわりの中で気付いたことを自らの言葉でまとめたりすることができるようにする。また、振り返りを継続・蓄積させることによって、単元の初めと終わりにおける変容や、自らの成長が子ども自身にも分かるようにする。

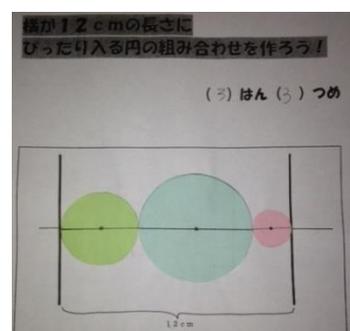
II 実践と成果 (第3学年「円と球」)

1 学ぶ意欲を高めるための手立て：課題提示の工夫について

第5時では、「横が12cmの長さの中にぴったり入る円の組み合わせを作ろう。」という学習問題を提示し、色分けした大小様々な大きさの円を実際に操作させて考えさせた。説明を聞くと「面白そう!やってみよう!」という声が子どもたちから続々と上がり、意欲的にたくさんの円の組み合わせを考えていた。

次に、考えた円の組み合わせを作図することで、ぴったりと入るための円のきまりを見つけさせたいと考え、「考えた円の組み合わせをかい
児童が考えた円の組み合わせ

て、かく方法を説明しよう」という課題を提示した。作業の進度に差はあったが、どの子も意欲的に円の組み合わせを作図し、どうやって作図したのかを自分の言葉で説明しようと意欲的に学習に取り組んでいた。



児童が考えた円の組み合わせ

2 気づきを生む授業づくりの手立てについて

(1) 学び合いの促進

単元を通して学び合いの場面を取り入れ、「全員が分かるようになること、できるようになること」が授業で大切なことだと繰り返し話した。初めは、課題が早く終わった子どもが考えをもてない友達のもとへ行き、声を掛けることが多かったが、学び合いを経験するうちに、考えをもてない子どもが自ら声を出し、友達に説明を求める姿も見られるようになってきた。隣同士で相談したり、考えを伝え合ったりする活動を頻繁に取り入れたことで、円の性質に気づき、いきいきと話す子どもたちの姿が見られるようになった。



協力して課題に取り組む様子

第5時においても、グループの友達と協力して課題解決を目指したことによって、すべての子どもが横が12cm長さの中にぴったり入る円の組み合わせを考えることができた。また、多くの子どもが「組み合わせた円の直径を合わせると12cmになる」というきまりに気づき、既習事項の直径等の言葉を使って説明することができた。

(2) 授業の振り返り

その時間で学習した内容からキーワードを設定し、それを交えて書くように指導し、継続して行った結果、子どもが自らの学びを書けるようになった。「分かったこと・まだ分からないこと・もっと知りたいこと」という振り返りの観点も提示したことによって、次時の学習を楽しむ子どもの姿が見られるようになった。また、振り返りの観点をおさえて書けている子どもの記述を紹介したり掲示したりしたので、書き方のポイントを掴み、授業中での気づきを自分の言葉でまとめることができる子どもが増えた。

Ⅲ 課題

子どもの学ぶ意欲を高め、気づきを生む授業づくりをするために、3つの手立てを講じて授業改善に取り組んできたが、この取組から成果とともに今後の課題も見えてきた。

第5時では、円を貼って組み合わせを考えただけで、同じものを作図してかき方を説明することで「組み合わせた円の直径の長さは違っても、全部の直径を合わせたら同じ長さになる」ことへの理解を深めさせたいと考えた。しかし、実際は、円の組み合わせを作る時点でこのことに気付いてしまっていたため、子どもの意識は作図作業に向いてしまった。組み合わせを考えただけで、横の長さの値を変えた場合について比較して考えさせることによって円の性質に着目(直径、半径の確認)させるなどの課題提示が必要だったと考える。

学び合いでは、友達の考えのよさに気づき、課題の解決につなげることができた。しかし、グループ活動の様子を見ると、ただ単に自分の考えを紹介し合っている姿も多くあった。学び合いでグループ活動を行うねらいは、個人の考えを伝え合うことだけではない。学び合いを通して考えを深め、新たな気づきを得るためには、「みんなの考えの共通点を探そう。」など、グループで学び合う意義を発問などで明確化する必要があった。また、グループの考えを全体に広げる際には、子ども同士の考えをつなげたり、子どもの言葉をもっと生かしたりして、友達の考えに十分触れられるような教師の働きかけが必要であった。

振り返りについては、自分自身の学習について見直し、学習状況を自覚できるようにするため、「今までの学習と似ていること、共通すること、新しいこと」などの観点も交えた指導を工夫し、自分で記述する活動を継続させていく。

本実践では、課題提示の工夫によって子どもの学ぶ意欲が高まったことを感じた。また、多様な考えを引き出すことにもつながり、友達の考えに触れることで新たな気づきを生むことができた。今後も子どもたちの学習の実態から、身に付けさせたい力を明確にし、有効な課題や学び合いの仕方を追究していきたい。